

2019年度

事業報告書
決算報告書

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月31日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

事業報告

循環型社会の構築を目指し、行政・消費者・産業界が緊密な連携のもとに3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）活動を推進することを目的として、活動を行った。

2019年度は、紙の価格上昇による印刷費や人手不足による封入・発送費用の単価上昇、宅配業者等の料金上昇、消費税率の変更など支出増加の要素が多かったが、予定どおり活動を行うと共に、それぞれの活動内容を見直すことで支出を抑え、予算の範囲の支出に収めた。活動は、次のとおり実施した。

1. リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の実施

3Rに率先して取り組み、顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施した。

1月中旬に推薦要領を協議会会員団体、都道府県、政令指定都市、中核市、特別区、建設副産物対策地方連絡協議会に配付し募集を行った結果、26推薦機関から86件の応募があった。

推薦案件について審査委員会（委員長 東京大学名誉教授 木村文彦氏 他13名）において厳正な審査を行った結果、内閣総理大臣賞2件（分野毎に1件）、文部科学大臣賞1件、農林水産大臣賞2件、経済産業大臣賞1件、国土交通大臣賞6件、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞28件、計40件を表彰するとの結論に至り、10月29日（火）、東京・竹橋のKKRホテル東京において表彰式を挙行了た。

表彰式には、94名（報道機関11名を含む）の出席があった。



内閣総理大臣賞の授与



内閣総理大臣賞受賞者による活動紹介

(1) 受賞者

令和元年度(2019年度)の受賞者は次のとおり。

内閣総理大臣賞(2件)

「個人・グループ・学校」分野(1件)

群馬県立藤岡工業高等学校

「事業所・地方公共団体等」分野(1件)

花王株式会社

文部科学大臣賞(1件)

「個人・グループ・学校」分野(1件)

飯田市立飯田東中学校

農林水産大臣賞(2件)

「事業所・地方公共団体等」分野(2件)

山梨罐詰株式会社 静岡県工業技術研究所 (2者連名)

キューピー株式会社 キューピータマゴ株式会社 (2者連名)

経済産業大臣賞(1件)

「事業所・地方公共団体等」分野(1件)

豊田鉄工株式会社 ※「鉄」の字は、かねへんに「矢」です。

国土交通大臣賞(6件)

「事業所・地方公共団体等」分野(6件)

株式会社鴻池組 山陰支店 (仮称)グランフォレスト黒田町新築工事
株式会社竹中工務店 北関東支店 凸版印刷深谷フェーズ6・7実装工事
株式会社竹中工務店 名古屋支店 愛知県大規模展示場建設工事作業所
三井住友建設株式会社 九州支店 小石原1号橋作業所
株式会社鴻池組 大阪本店 摂南大学農学部棟(仮称)新築等工事
株式会社オクノコトー

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞（28 件）

福山市立箕島小学校
株式会社不二産業 株式会社新潟不二 A. B. (2 者連名)
株式会社開成 カイセイ農研株式会社 (2 者連名)
山一金属株式会社
川瀬産業株式会社
株式会社鴻池組 大阪本店 東播用水二期農業水利事業 淡山連絡水路建設工事
株式会社鴻池組 山陰支店 日本銀行松江支店営業所空調設備等改修主体工事
鴻池・西武・坪井建設共同企業体 カヌー・スラローム会場整備工事
五洋建設株式会社 東北支店 面瀬川災害復旧工事事務所
株式会社竹中工務店 東関東支店 東京理科大学野田校舎新 7 号館新築工事
竹中・國場・大城・大米特定建設工事共同企業体 (仮称) サンエー浦添西海岸計画新築工事
戸田建設株式会社 宮城県津谷川災害復旧工事作業所
戸田建設株式会社 広島支店 済生会豊浦病院改築事業
西松建設株式会社 関東土木支社 外環中央南工事事務所 東京外かく環状道路 中央ジャンクション 南工事
西松建設株式会社 西日本支社 京都西シールド出張所
西松・大米・金秀・太名嘉・東江・大成ホーム共同企業体 豊見城中央病院出張所
株式会社加賀田組 新潟支店 阿賀野バイパス 百津跨道橋下部工事 百津下部工作業所
有限会社ナカムラ造園土木
瀬戸内緑地株式会社
成友興業株式会社 環境事業部 あきる野事業所
生活協同組合ユーコープ おうち C O - O P リサイクルセンター
日本リサイクルネットワーク・えべつ
るもいリサイクル関係団体ネットワーク会議
枚方エコサイクル
十和田市消費者の会
平瀬 幸雄
飛島建設株式会社 技術研究所・新事業統括部・安全環境部 株式会社最上クリーンセンター (2 者連名)
田中建設株式会社

（２）表彰結果の広報

受賞者の受賞した活動の概要をまとめた「令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰結果発表」冊子を 1,000 部作成し、426 部を審査結果解禁日（10 月 25 日）に合わせて関係省庁の記者クラブに、200 部を表彰式会場で受賞者等にそれぞれ配付した。

また、協議会会員、推薦機関に 1 部ずつ（合計 217 部）配付した。

（３）次年度に向けた対応

表彰件数は減少傾向にあり、推薦募集件数の増加のための方策については、審査委員会において継続的に審議している。賞に値する取組にも関わらず応募されていない取組がまだあると考えられるので、これらの取組が推薦されるよう方策を検討している。

また、平成 29 年度の第 3 回審査委員会（2017 年 11 月 28 日）における意見を受けて、企画運営委員会においても募集拡大の検討を行っている。

令和 2 年（2020 年）度の募集に向けて、前年度に引き続き、募集広告のポスター（A2 版）を作成し、推薦の募集案内に同封した。

（４）スケジュール

応募がしやすいように募集の期間を長くするため、前年度から募集を開始した。

<2019 年度（令和元年度）の主な実績>

（2019 年（平成 31 年、令和元年））

1 月 21 日	推薦募集開始（推薦機関への案内、ホームページ等で紹介）
2 月 8 日	各省後援・大臣賞交付申請
4 月 19 日	推薦募集締切り
5 月～8 月	審査（書面審査、審査委員会）
10 月 29 日	表彰式
12 月 2 日	次年度に向けての検討（審査委員会）

（2020 年（令和 2 年））

1 月 21 日	次年度推薦募集開始
2 月 14 日	次年度各省後援・大臣賞交付申請

2. リデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークの普及・利用促進

企業・地方自治体・市民団体・業界団体・学校等の要請に応じて、3R実践活動や啓発・教育活動の場でリデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークを広く使用してもらうことにより、3Rに対する意識の向上や啓発を図った。

具体的には3R推進功労者等表彰や3R関連のイベントなどの場を活用して、3Rに積極的に取り組む企業・グループ・団体等に対して3Rキャンペーンマークの利用を勧め、3R推進のアイコンとしての認知度向上を図ると共に、人々の目に触れる機会を増やして3Rに対する意識の訴求を図っている。

昨年9月には、(一社)産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センターと合同で、全国1,789の市区町村の3R・循環型社会推進のご担当者宛に、キャンペーンマーク紹介及び協議会の紹介ちらしを送付した。この取組は2016年度(平成28年度)から始めて、今回で4回目になる。初回はその反応と思われる申請はあまり見られなかったが、年々、市区町村(クリーンセンターを含む)からの問い合わせが増える傾向にある。

市区町村を除く件数は年間20件前後で推移しているが、過去に使用した企業などから、新たに別の内容で使用申請されるケースも出てきている。



左から、市区町村に送ったちらし、(マークの使用例)市の事業者向けパンフレット及び企業の職場啓発ポスター

3. 活動強化策の実施

協議会活動を充実させるべく、活動強化策を継続している。内容については、企画運営委員会で審議の上で実施した。

1) 企画運営委員会

前年度に引き続き、協議会活動を充実させるべく活動強化策の具体的な内容の検討や意見交換を行った。

(活動強化策実施予算) 100 万円

<実績>

- 第1回企画運営委員会 2019年7月2日 於：産業環境管理協会 AB会議室
- 第2回企画運営委員会 2019年12月23日 於：経済産業省 別館 235 共用会議室
- 第3回企画運営委員会 2020年4月15日～24日 (Eメールによる持ち回り)

<2019・2020年度企画運営委員>

(委員長)

中田 良平 スチール缶リサイクル協会 専務理事

(副委員長)

大石美奈子 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
代表理事・副会長

(委員)

加藤 聡	ガラス再資源化協議会 代表幹事
田中 希幸	ガラスびん3R促進協議会 事務局長
新妻 弘章	建設副産物リサイクル広報推進会議
細川 浩之	一般社団法人セメント協会 生産・環境部門リーダー
数野 裕史	電気事業連合会 立地環境部長
深野 行義	一般社団法人日本ガス協会 環境部長
天川 紀子	一般社団法人日本建設業連合会 次長
村田 利明	一般社団法人日本産業機械工業会 環境装置部長
目黒 雅也	一般社団法人日本自動車工業会 環境統括部長
中原 靖	一般社団法人日本自動車部品工業会 技術部 次長
國澤 典生	一般社団法人日本道路建設業協会 常務理事
平田 成	公益社団法人日本包装技術協会 包装材料研究室長
富田 斉	一般社団法人プラスチック循環利用協会 広報学習支援部長

また、3Rに関係する7省庁のご担当者におブザーバーとしてご指導いただいた。

(国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省)

2) 3 R連絡会

行政、会員団体等に情報を提供いただき、業種などを越えた広範な3 R動向の把握、交流を図った。当連絡会は、会員団体及びその会員企業等、関係省庁に参加を限定し、できるだけ多く参加いただける共通の話題をテーマにした。

(第1回) 2020年2月7日開催

循環・3 Rリレーセミナー(3 R活動推進フォーラムとの共催)

(第2回) 新型コロナウイルスの影響を勘案の上、延期

3) 優秀3 R推進活動発表会

前年度の3 R推進功労者等表彰の大臣賞受賞者に、受賞の取組や受賞後の発展について発表していただき、行政所管、産業分野を越えて広く共有化、普及啓発を図った。当発表会は、会員団体及びその会員企業等、関係省庁に限定して受賞者の取組をご紹介いただいている。

開催：2019年6月4日(2019年度総会後に開催)

内容：

- ・「プラスチックリサイクルとIT技術の融合による新たな挑戦—杭の可能性を追い求めて—」
株式会社リプロ(経済産業大臣賞受賞者)
- ・「情報・通信機器のリサイクルによるベースメタル及びレアアースの国内循環推進」
株式会社日立産機中条エンジニアリング/東京エコリサイクル株式会社
(2者連名、経済産業大臣賞受賞者)
- ・「3 Rで可燃ごみの重量を減らし、古紙類を選別工夫して資源物に！」
サンコーポ勝田台自治会(環境大臣賞受賞)
- ・「キューピーグループにおける未利用資源を活用した資源循環の推進～野菜未利用部を活用した新たなエコフィードへの挑戦～」
株式会社グリーンメッセージ/キューピー株式会社(2者連名、内閣総理大臣賞受賞者)

当日使用された資料は、協議会ホームページに掲載した。

(URL) https://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/winners/winners_r01/

4) 3 R推進ポスターの制作・配布

工場、工事現場、オフィス、流通などのビジネス現場や公共の場において事業者、3 R活動の推進を訴求する「3 R推進ポスター」を制作し、10月の3 R推進月間に合わせて会員団体、配布した。

ポスターのデザインは、協議会主催によるデザインコンテストで公募し、その最優秀賞作品を使用した。コンテストにはデザインを募集するという役割と、中学を卒業後に3 Rに馴染みがない人々から応募があるため、募集に際しては3 Rを簡単に紹介したリーフレット『3 Rって何だろう?』を案内に同封するとともに、協議会ホームページでも公開して、3 Rを正しく理解してもらえるように努め、啓発の機会とした。

<デザインコンテスト概要>

デザイン募集期間： 2019 年 2 月 1 日～6 月 7 日

応募作品数： 289 点

選考日時： 2019 年 7 月 2 日

選考メンバー： 企画運営委員、関係省庁ご担当者、福田秀之氏（アートディレクター）

選考結果： 最優秀賞 1 点（荒幡 流花 氏（北海道 専門学校生））

佳作 33 点

ポスター印刷枚数： 1,200 部（A1 サイズ）

印刷したポスターは、会員団体、関係省庁、主な地方公共団体の 3 R 関連部署などに配付した。

また、3 R 推進功労者等表彰の表彰式会場、3 R 推進全国大会の出展ブース、3 R 活動推進フォーラムとの共催セミナーの会場などで掲示した。



最優秀賞受賞作品



3 R 推進ポスター

受賞作品、3 R 推進ポスターについては、協議会ホームページで公開している。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/poster/pastaward/>

当ポスターは過去の方も含めて協議会のホームページ上に公開しており、誰もが自由にダウンロードして利用可能としている。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/poster/guide/>

5) 3R関連の機関や団体等との協業

3R関連の機関や団体との協業を積極的に行い、より広範な3Rの情報提供に努めた。

<後援（日付は許諾日）>

- ・「実践活動としてのスチール缶を含む集団回収を通じて環境学習に取り組む小・中学生への支援事業」（スチール缶リサイクル協会、4月15日）
- ・「第14回容器包装3R推進フォーラム」（3R推進団体連絡会、8月9日）
- ・「2019建設リサイクル技術発表会・技術展示会」
（建設副産物リサイクル広報推進会議、8月30日）
- ・「令和元年度建設副産物リサイクル広報用ポスター」
（建設副産物リサイクル広報推進会議、8月30日）

<出展>

- ・第14回3R推進全国大会（環境省、他主催）
日にち：2019年10月29日
場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（新潟・万代島）

<共催>

- ・循環・3Rリレーセミナー（3R活動推進フォーラムとの共催）
日時：2020年2月7日 13:30～16:30
場所：アイビーホール（東京・青山）
内容：

テーマ	講演者
「持続可能な社会に向けた資源循環経済ビジネスの課題と展望」	中部大学経営情報学部 細田 衛士 教授
「資源循環政策の動向」	環境省
「食品ロス削減の推進と農林水産業・食品産業におけるプラスチック資源循環の取組」	農林水産省
「プラスチック資源循環戦略と資源循環政策について」	経済産業省
「プラスチック削減・食品ロス削減に向けた取組み」	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
「プラスチック資源循環の課題と展望」	一般社団法人プラスチック循環利用協会

当日配付した資料は、協議会ホームページに掲載した。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/joint/>

6) 3 R 推進協議会事業活動の広報強化

協議会の活動の認知度を更に高め、3 R の推進につなげるべく活動している。特に3 R 推進功労者等表彰は、全国の優れた活動を表彰することで、新聞、機関誌で受賞者やその取組が取り上げられるケースがあるため、3 R 活動の優良事例のPRとなっている。

優良事例を増やすため、企画運営員会においても表彰への推薦を増やす検討をしている。

企画運営委員会においては、当初アンケートを実施して、応募書類作成などの負荷、また受賞した結果の反響などをヒアリングするという案を検討していたが、検討を進める中で課題があることが分かった。教員は働き方改革を推進していたり、建設は工事現場単位の取組が多く、現場では反響などを把握している可能性が少なかったりと、受賞者によって事情が異なることから一律のアンケートでヒアリングするのは難しいと考え、まずはサンプリングとして小規模にヒアリングすることにした。

具体的には、年度の理事会・総会に続けて行っている優秀3 R 推進活動発表会の講演者に簡単なインタビューを行い、ヒアリングをすることを計画している（ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できるかは不明）。ヒアリングの結果を踏まえて、この方法が効果的かどうかも含めて検証していく予定である。

また、環境系のイベントにおいて、ブース出展している企業等に対して、表彰制度や協議会の紹介を行った。

7) その他

12月5日に、埼玉県上尾市立東中学校から生徒6名の企業訪問があった。内容は、協議会がどういう組織か、財源はどのようにしているのかというものが主であったが、質問に回答するとともに、それに関連してごみの排出量、3 R にかかる法制度や歴史、ごみカレンダー（上尾市）などの紹介をした。

なお、事前にやり取りした先生によると、訪問した6名の生徒は環境問題に関心が特に高く、3 R に関する団体を調べていたところ、当協議会にたどり着いたとのことであった。



以上

決算報告

2019 年度 収支決算書

自 2019 年 4 月 1 日 至 2020 年 3 月 31 日

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部				
1. 会費収入	4,370,000	4,290,000	△ 80,000	退会 1 団体
2. 雑収入（受取利息収入等）	0	38	38	
3. 前期繰越収支差額	3,531,000	3,531,362	362	
当期収入合計（A）	7,901,000	7,821,400	△ 79,600	
II 支出の部				
1. リデュース・リユース・リサイクル 推進功労者等表彰事業の実施	3,570,000	3,599,471	29,471	表彰式会場費、委員会関係費、推薦要 領・表彰結果冊子印刷費・発送費、表彰 状作成費等
2. 3R キャンペーンマークの普及	50,000	38,880	△ 11,120	3 R キャンペーンマークの紹介ちらし を印刷（全市区町村に配付）
3. 企画運営委員会経費	0	0	0	交通費等は各委員又はその所属団体が 負担。場所は経済産業省の会議室にて実 施
4. 3R 推進事業費	1,000,000	954,099	△ 45,901	サーバーレンタル費、ドメイン名使用 料、事例発表会講演者の謝金・交通費、 3 R 推進ポスター（作品募集、印刷、賞 金）、3 R 全国大会出展、3 R 活動推進 フォーラムとの共催イベント（会場費、 謝金、印刷費等）
5. その他経費	50,000	30,024	△ 19,976	総会・理事会開催費用
6. 事務局経費	0	0	0	上記 1～5 に係る事務局経費（人件費及 び事務局運営諸費用）。 実際に発生した事務局経費は、協議の結 果、産業環境管理協会が負担
7. 管理費	120,000	75,820	△ 44,180	通信費、消耗品購入費、振込手数料等（直 接事務に係る費用のみ。事務局運営諸費 用を除く）
当期支出合計（B）	4,790,000	4,698,294	△ 91,706	
当期収支差額（A）－（B）	3,111,000	3,123,106	12,106	

正味財産増減計算書
(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位: 円)

科 目	金 額
I 増 加 の 部	
当期経常収益	4,290,038
増 加 額 合 計	4,290,038
II 減 少 の 部	
当期経常費用	4,698,294
減 少 額 合 計	4,698,294
当期正味財産増減額	△408,256
前期繰越正味財産額	3,531,362
期末正味財産合計額	3,123,106

貸 借 対 照 表
2020年3月31日現在

(単位: 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
現金	18,962	未払金等	28,750
普通預金	2,675,926		
前払費用等	456,968	III 正味財産の部	3,123,106
合 計	3,151,856	合 計	3,151,856

財 産 目 録
2020年3月31日現在

(単位: 円)

科 目	金 額
I 資 産 の 部	
現金 現金手許残高	18,962
普通預金 三菱UFJ銀行本店	2,675,926
前払費用	456,968
資 産 合 計	3,151,856
II 負 債 の 部	
未払金など	28,750
負 債 合 計	28,750
正 味 財 産	3,123,106

計算書類に対する注記（2019 年度）

1. 重要な会計方針

(1) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金、前払費用及び未払金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は 2. に記載のとおりである。”

(2) 消費税は、税込方式を採用している。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金	4 6, 4 6 2	1 8, 9 6 2
普 通 預 金	3, 1 8 2, 7 4 8	2, 6 7 5, 9 2 6
前 払 費 用	3 3 0, 3 7 9	4 5 6, 9 6 8
(合 計)	3, 5 5 9, 5 8 9	3, 1 5 1, 8 5 6
未 払 金	2 8, 2 2 7	2 8, 7 5 0
(合 計)	2 8, 2 2 7	2 8, 7 5 0
次期繰越収支差額	3, 5 3 1, 3 6 2	3, 1 2 3, 1 0 6

残高証明書 ACCOUNT BALANCE CERTIFICATE

7101-0044

東京都 千代田区 鍛冶町 2丁目 2-1

株式 三菱UFJ銀行



作成日 令和02年04月01日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
事務局代表 小山 志津夫 様

MUFG Bank, Ltd.

お取引店 本店

電話 03 (3240) 1111

[illegible]

0001 RYRI150D E N 11

K1

(全口座 (口座別))

同文のもの 1通発行の内第 1号
(001-2054779)

令和 02 年 03 月 31 日現在の貴方ご名義下記勘定残高について
相違ないことを証明いたします。

THIS IS TO CERTIFY THAT THE BALANCE OF YOUR ACCOUNT(S)
WITH MUFG Bank, Ltd. SHOWS THE AMOUNT(S) INDICATED BELOW.

1 ページ

[illegible]

- ・この証明書の金額は訂正いたしません。
- ・金額は、証明日現在の元帳最終残高を表わし決済未確認の証券類を含んでいることがあります。この場合はその金額を「(内決済未確認証券類)」に表示します。
- ・「当座貸越(総合)」には、普通預金貸越型のカードローンご利用額も含まれます。
- ・口座番号欄は、口座指定のご依頼の場合のみ表示します。

YBI01 NH9A1A R0005532

1119913

1 / 1

以上



監 事 意 見 書

2019年度リデュース・リユース・リサイクル推進協議会の事業執行並びに収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録及び計算書類に対する注記について監査し、その適法かつ正確であることを確認しました。

2020年 5月 2日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

監事 辰巳 菊子 